

## 【臨床・研究】

島根県感染症動向調査からみた  
成人水痘の増加

いずみ 泉                      のぶ お 夫

キーワード：水痘，成人水痘，島根県感染症発生動向調査，  
ワクチン定期接種，帯状疱疹予防ワクチン

## 要 旨

水痘は良性の小児疾患で，合併症や死亡は免疫不全者の事との印象を持たれがちである。しかし，その多くは健康であった者におき，近年，高リスクの成人罹患者の増加が懸念されている。今回，1990年から18年間の小児科定点からの水痘とムンプスの成人報告数（水痘は2006年24人）の動向を比較した。1993年から3年の成人件数/全件数を1とし，3年毎の指数は期間の後半は水痘2.3~2.8に対しムンプスは1.0~1.2で成人水痘の増加を認めた。年齢移行の要因に1) 予防接種を低接種率で継続，2) 年少集団保育の普及，3) 兄弟数の減少，4) 早期診断・隔離の徹底が考えられる。対策は幼児の定期（2回）接種である。少なくとも思春期・若年成人の感受性者のチェック体制を強化し接種する。児の介護や成人罹患も含む社会損失の節減は接種費用を凌駕し，帯状疱疹も勘案すると効果はさらに拡大する。水痘・帯状疱疹による入院と転帰の全数届出制の確立も望まれる。

## はじめに

感染症の罹患状況は，ワクチンの状況，保育・住宅環境，人口構成，気候などの影響を受けうる。発生動向にはこれらを勘案する長期的視野からの監視も求められる。

水痘では，1982年（昭和57年）の発生動向調査の開始以来，全国的に1~4歳層の拡大と5~9

歳層の縮小が認められ，集団保育の普及によると目されている。

成人水痘は，重症化，医療従事者を介する院内感染，妊婦の感染の問題があり，近年，その増加の印象が云々されるが，少数の患者群であり，調査は容易でない。成人の水痘抗体（スクリーニング法）保有状況調査は，医療従事（予定）者でよく実施され，抗体陰性は全従業員の0.7%の報告<sup>1)</sup>の一方，医学部5年生の5.0%，看護学生で6.3%<sup>2)</sup>や5.9%<sup>3)</sup>の報告もある。5~6%の数值は増加を示しているのであろうか。

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科  
連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613